

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

勝坂遺跡公園を活用する 実行委員会を立ち上げます！

平成 22 年 4 月に開園した史跡勝坂遺跡公園では、縄文時代の集落遺跡である勝坂遺跡を理解していただく各種普及事業を市教育委員会文化財保護課にて開催しています。

今年度は原則第 2 日曜日を定例事業日とし、博物館学芸員ほかによる講座や遺跡周辺探訪を実施しております。特に、11 月 3 日（祝）には、勝坂遺跡縄文まつりを開催し、各種体験コーナーや協力団体による出店などを予定しています。

【実行委員会設立にむけて準備中】

現在、勝坂遺跡の普及事業を行う実行委員会設立に向け、文化財調査・普及員有志にて研修・打合せを重ねています。今後、市民の視点を取入れた楽しく有意義な普及事業を企画・運営していく予定です。そこで、今回はこれまで勝坂遺跡普及事業に協力し、現在も研修、打合せに参加している文化財調査・普及員より勝坂遺跡への想いや今後の抱負などについて述べたいと思います。



勝坂遺跡公園

目次

- ① 仮) 勝坂遺跡公園普及実行委員会準備中
- ② 浅川地下壕を見学して
・文化財調査・普及員の活動「文化財パトロール」
- ③ 境川上流に架かる橋（大正橋）に関係する伝承
・コラム：古民家園と田名向原実行委員会
- ④ 文化財マップ紹介～大沼・小沼地区周辺～
・文化財保護課からのお知らせ

“縄文が新しい時代をつくる”

勝坂遺跡を全国に PR するため、次の 3 つをテーマに取り組んでいきたいと考えております。

◎伝統ある勝坂遺跡から縄文文化を発信する。

顔面把手付土器に代表される「勝坂式土器」として、豪華で優美にあふれる文様は、現代の芸術、陶芸に勝るとも劣らない。

◎勝坂の原風景を再生し、自然と深くつなげる。

遺跡周辺の照葉樹林を大切にし、ドングリ・クルミ・トチノミなど広葉樹林の育成、山葡萄・きいちご・アケビなど果実類の植樹をしよう。

◎縄文の生活空間を心癒される広場に…。

勝坂の懐かしい香りで学び、元気に遊び、交流を深め、共生と調和の縄文の精神と文化を育てる。
(南部班 星名)

縄文人に変身！ →



← 縄文まつりで土器作り

浅川地下壕を見学して

北部班のイベントで戦争遺跡、浅川地下壕（八王子市初沢町）を見学しました。

浅川地下壕は大本營の移転先候補地でしたが、移転場所が長野県の松代に決まり、浅川は中島飛行機武蔵製作所の疎開地として昭和19年9月に掘削工事が始まりました。

地下壕は3ヶ所作られました。私達は右図の①地区を見学しました。①地区は東西に掘られた9本の坑道とその連絡杭が基盤の目のように整然と掘られていて、長さ4.2km、総面積17,492㎡の地下工場で、昭和20年8月まで約10台の「寿」という飛行機のエンジン^{ことぶき}を完成させたといわれています。

この日は北部班8人、南部班2人の10人の参加で、浅川地下壕の保存をすすめる会の中田さんに案内して頂きました。壕内は照明設備がなく真っ暗で、懐中電灯をたよりに歩きました。

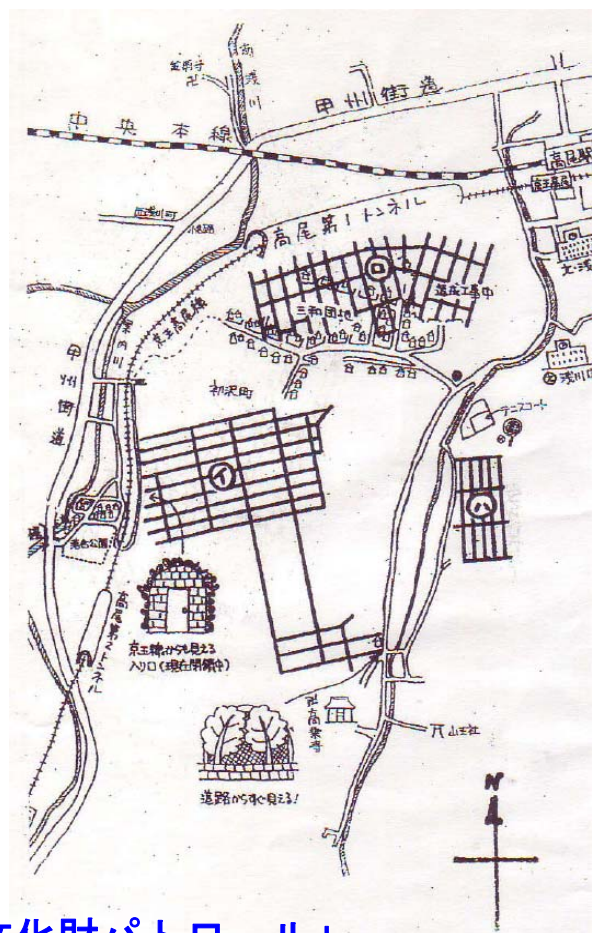
壕は素掘りのままで岩肌が荒々しく、削岩機で掘った跡、ダイナマイトの穴、トロッコの枕木跡等を見る事ができました。

この掘削工事は突貫工事で三交替、劣悪な労働条件のもとで陸軍東部軍特設作業隊などの軍人、佐藤工業、大倉土木の労務者に加え、当時植民地支配下にあった人達が強制労働を強いられたとされています。

戦争が終わり、強制労働者の多くは祖国に帰り、また日本に残ることを選んだ人もいました。その後の彼等は幸せな生活を送ることができたのかと考えさせられました。

戦争遺跡浅川地下壕を保存、整備して一般公開できるようになればと思っています。

（北部班 佐々木）



文化財調査・普及員の活動「文化財パトロール」

文化財調査・普及員の主な活動として、年2回（9月、3月）、担当地区文化財の現状確認のパトロールがあります。対象文化財の分担を決め個人で回ることもありますが、やはりグループ全員で巡回するのが楽しいひと時となっています。古参メンバー、地元の方、お寺の住職などから話しを聞く機会でもあります。自分で調べたことをメンバーに話したり、歩きながら色々な話へと発展すること



善勝寺（コウヤマキ）のパトロール

もあります。

しかし、楽しいことばかりではありません。風雨にさらされ、劣化・破損が進行したものや、樹木医の手当を要するほど弱り切った保存樹木などを見るにつけ、報告書に記載するだけで、早急な対処が出来ない現状に悲しい思いをすることも多いのです。

ともあれ、パトロールによって地域の方々と文化財保護活動の大切さを共有できることは大変有意義であり、郷土の歴史や文化遺産に直接触れ学ぶことが出来るのは、座学とは違った楽しみになっています。

（津久井班 久保）

境川上流に架かる橋（大正橋）に関する伝承

境川に架かる橋の一つ、大正橋は、相模原市中央区宮下本町3丁目（旧相模国高座郡小山村矢掛）と町田市小山町（旧武蔵国多摩郡小山村片所）の両地区を結んでいる橋です。

大正橋に関する伝承として供養塔と、婚礼の行列が通ることを忌む橋の話がありますが、今回は供養塔の伝承について紹介します。

供養塔は、高さ94cm・幅32cm・厚さ33cmの角柱石で、蓮華座とその下に二段の台座があり、台座を合わせると総高165cmです。前面中央には、「□（種子）奉納大乘妙典六十六部日本回国供養塔」、その右に、「天下泰平」、左には、「国土安全」の文字が刻まれています。右側面には、「相州高座郡小山村回国行者橋建立願主、常盤弥兵衛、稽主」と四行に、左側面には、「□維、天明二年元次辛丑霜月吉辰」と二行に、それぞれ刻字されています。

この塔についての伝承は、以下のとおりです。安永年間（1772～1780年）の初秋、暴風雨により、現在の大正橋のある場所にあった土橋が流出しました。そのとき、一人の六十六部の行者が通りかかり、村人の困っている様子を見て、「私は廻国行脚中ですが、橋を架ける費用を貰い集め、数年の内に必ず持ってきます。それで丈夫な橋を架けなさい」と言い残して、村を去りました。数年が過ぎたある日、突然この六部が村に現れ、村人にお金を渡し、そのまま村を去りました。村人は、このお金で仮橋に代えて丈夫な橋を架けました。そして、当時村の有力者であった、常盤弥兵衛さんが、天明元年霜月に、橋の袂に供養塔を建て、六部に感謝の意を表し供養したといわれています。また、集落の人たちも年一回この塔の前で供養念仏をしていましたが、今は行われていません。供養塔は橋の袂（相模原側）の大きな松の下にありましたが、昭和40年代の境川改修工事の際に常盤弥兵衛さんの子孫である常盤家の邸宅内（宮下2丁目）に移され現在に至っています。

この伝承には異説もあるようですが、最近では地元の人たちにも、あまり知られていないようです。（北部班 宮崎）



六十六部日本回国供養塔

コラム

文化財調査・普及員有志の実行委員会が支える

古民家園保存・普及事業と田名向原案内・普及事業

古民家園事業のお知らせ

7月24日（日）古民家園に於いて、ボランティアグループ「舞彩駒^{ぶさいくま}」による和太鼓の演奏を行います。力強い太鼓の音色に暑さを吹き飛ばしませんか？体験もできますよ！

（古民家園保存・普及事業実行委員会）

田名向原遺跡公園に“遠来のお客様”

来訪者は当然のことながら市内の方、とりわけ近隣の田名地区・麻溝地区からという方がほとんどです。そんななか、時にびっくりするような来訪者があります。

6月に入った案内日（日曜日）の午後、遠く群馬県からというご夫婦がありました。車で走っていて、「遺跡公園」が目にとまったので寄ってみたとのことでした。

群馬県といえば、日本で初めて旧石器時代の石器が発見された“岩宿遺跡”のあるところですので、なにかの縁を感じました。

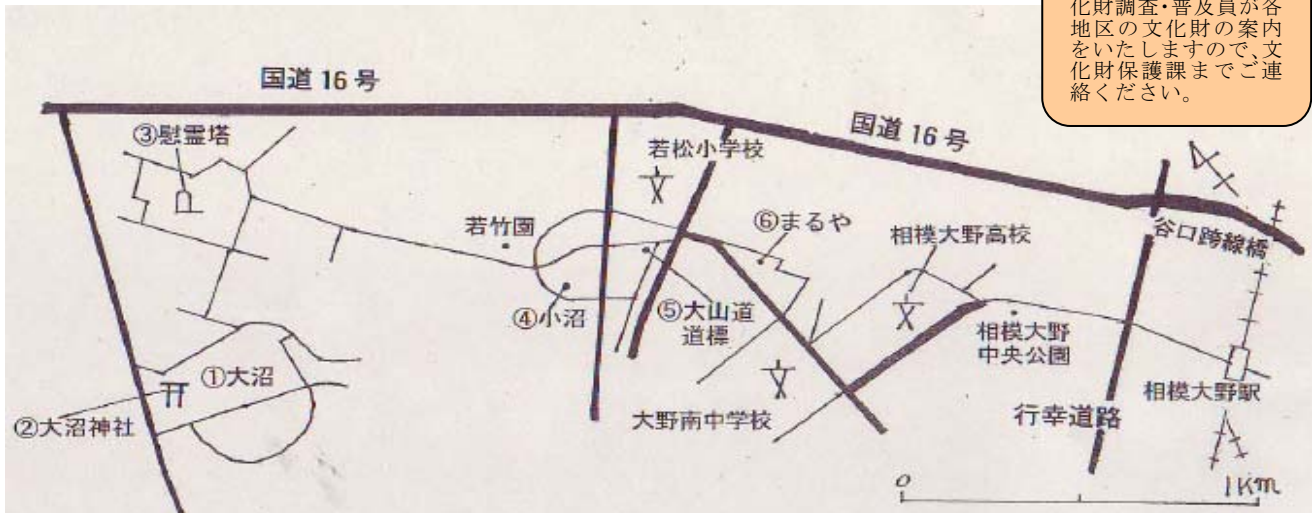
（田名向原案内・普及事業実行委員会）

* 六十六部とは…

正しくは日本回国大乘妙典経聖といい、江戸時代には六十六部または六部の略称でよばれた回国聖のことです。書写した法華経札を全国六十六カ国の霊場に一部ずつ収める目的で、諸国の社寺を遍歴する行脚僧です。

地名由来の大沼・小沼地区を歩く

*ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区的文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。



「大沼」①には文字どおり、かつては大きな沼があり当地の地名の由来(現在東大沼)にもなっています。ひところ沼が埋め立てられ水田開発がされましたが、昭和40年代に宅地に造成されました。高さ2mもの大沼水田記念碑と地名標柱が大沼神社に隣接して立ち、開発の歴史を今に伝えています。「大沼神社」②の祭神は市杵島姫命いちきしまひめのみことで、明治4年までは大沼弁財天、沼は弁天沼と呼ばれ、水に縁がある鎮守だったことが分かります。

神社の脇の道を東へ向かうと、左手にやや小高い雑木林が見えてきます。この道は大沼の外周部に当たるそうです。雑木林は昭和半ばまでは薪炭の供給地で、地元の人は今でも「やま」と呼んでいます。林の中の散策路を通り、「慰霊塔」③へ行ってみましょう。日清・日露戦争から第二次世界大戦関係までの十基あまりの石碑があり、碑

文は我が国の苦難の歴史を今に伝えていきます。

福祉施設の若竹園の前まで行くと、そこから急な下り坂になります。ここは「小沼」④があった場所で旧字名(現在若松)でもあり、今は住宅地の中の小公園に、地名標柱が立っています。若松小学校方向へ行くと、小道の角に「大沼道」の道標⑤があり、石祠の中に不動明王像が祀られています。南西方向が、相模川の磯部の渡しに通じる道です。

バス通りに出てすぐ住宅地に入ると小公園にもう一つ、「まるや」という小さな沼の跡⑥を示す地名標柱があり、周辺が「まるやぶち」です。次に相模大野高校から相模大野中央公園へ出ましょう。この地には昭和56年まで米軍施設がありました。三つの沼の跡をたどる小さな歴史散歩は終わり、小田急線の相模大野駅はまもなくです。

(東部班 宮下)

文化財保護課からのお知らせ

津久井広域道の発掘調査開始！

津久井城跡荒久地区と小倉原西地区で、津久井広域道路建設に伴う発掘調査がまもなく始まります。荒久は、津久井城家臣屋敷の伝承地付近、また小倉原西では縄文時代の陥穴などの発見が期待されます。秋頃～冬には発掘調査見学会を開催予定です。

旧石器ハテナ館事業

ナイトミュージアム in 田名向原

8/28(日) 午後7:00～9:00

…旧石器ハテナ館と遺跡公園を夜間開放し、肝試し&クイズラリーを開催します。

*文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは相模原市のホームページからダウンロードできます。

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371